

熊本県立芦北高等学校 令和7年度（2025年度）学校評価表

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>【教育目標】 「私は挑戦する、夢を実現するために」</p> <p>【目指す生徒像】 (1) 夢に向かって努力し、互いに協働する生徒 (2) 自己と他者を認め、人の心の痛みがわかる、心優しき生徒 (3) 課題に気づき、解決のために行動する生徒</p> <p>【教師の目標】～職場のモットウ「元気に、明るく、楽しく」～ (1) 生徒一人ひとりを理解し、個性を知り、伸ばす教育を実践する。 (2) 学習の基礎基本から、発展させて生徒をワクワクさせる。 (3) 生徒・保護者・地域の期待を理解し、連携して目指す生徒像の実現に努める。 (4) すべての校務において課題を共有し、解決につなげる。</p>
--

<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>【重点目標】～「良い学校」であるために～ (1) すべての教育活動において「魅力ある人を育む」を具現化 (2) 教育環境の充実と活用で効率的・効果的な教育活動・校務対応の推進 (3) 創立以来の歴史に学び、この1年を大切に「生徒を誇る学校」を実現</p> <p>【教育方針】 (1) 生徒一人ひとりの個性と可能性を伸ばし、社会で活躍できる魅力ある人材を育成。 (2) チャレンジ精神旺盛で夢の実現に向かって挑戦する人材を育成。 (3) 自然との関りや地域交流を通して、自然と郷土を愛し大切にすることを育成。 (4) 地域に学び、学びを地域に還元、地域に開かれた学校づくりを推進。 (5) 生徒自身による主体的・創造的な学習活動と特別活動を推進。 (6) 1人1台端末とICTを活用し、より効果的な学習指導を実践。 (7) 部活動を推奨し、生徒の心身の鍛錬と活気溢れる学校生活を実現。 (8) 図書室活用と読書による、読む力・考える力・判断する力・表現する力を伸ばす。 (9) 適切な生徒の支援と指導で、安心して過ごせる学校をつくる。 (10) 各教科・科目の学びや国際交流活動等において、SDGsへの取組みを推進。</p>
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	魅力ある学科づくりの推進	令和8年度の入学生は令和7年度の入学者（3学科）74名を超える80名を目標に魅力ある取組を実施。  地域や企業と連携した取組の深化	中学校や地域との連携を更に深め、芦高教育の魅力地域へ発信し、各科の特色を活かして生徒募集に繋げる。地域みらい留学の取組により、全国へ学校の魅力発信を行う。地域や企業と連携した取組をさらに深化させていく。	A	農業科、林業科、福祉科それぞれの特色を生かし、地元の小中学校や地域と連携を図り、ホームページやSNSを活用し、本校の十分に魅力を発信することができた。おためし留学では10名の県外中学生の参加があり、全国に向けた魅力発信の成果も着実に表れている。
	教職員の資質向上	校内研修の充実と校外研修への積極的参加	教育課題に応じた必要性の高い校内職員研修の企画。職員それぞれの専門性向上や課題解決を目指した外部研修会への参加奨励。	教育時事や教育課題に応じた校内研修を月に一度実施する。「PLANT」を活用した外部研修会への参加を奨励し、授業力向上や教師としての資質向上を図る。	B	いじめ防止や不適正経理処理の防止、人権教育、ICT利活用等様々な職員研修を実施することができた。PLANTを活用した外部研修会への参加は7名述べ11研修であった。引き続き資質向上のための研修受講を奨励していきたい。

	業務改善 働き方改革	校務の精選と効率化	各校務分掌業務の精選。  校務DX化による業務の効率化と業務従事時間の短縮。	年間反省をもとに校務分掌で課題解決の取組を具現化する。 校務DX化による会議等のペーパーレス化や準備時間の削減により業務従事時間を短縮する。	A	各校務分掌で課題を共有し、ICTなどを活用し、チームとして課題の解決を図った。 「芦高サイト」を立ち上げ、そこにあらゆるリンクを集約した。また、各種会議等のペーパーレス化を進め、時間削減とともに紙代削減にもつながった。
	危機管理	豪雨等の災害を見据えた防災型教育環境の整備 不祥事根絶の徹底	不測の事態に対応できる機動性の高い学校組織の再編。 不祥事ゼロを目指し、地域から信頼される学校づくりを目指す。	自然災害等における防災行動の確認と避難訓練の実施。 月に2回、芦北高校不祥事防止確認事項を朝礼で確認し、不祥事根絶の意識を高める。短期集中型の効果的な職員研修を実施する。	A	火災及び地震・津波の避難訓練において見直しを行い適切に実施した。防災講話を開催し、学校全体で防災への意識高揚を図った。昨年同様地元の消防団と連携し防災訓練を行うことができた。 月始めと月半ばの職員朝会で、不祥事防止確認事項を読み上げた。不祥事防止研修も効果的に実施できた。
学力向上	授業力向上のための取組	授業の充実	校外の各種研究授業や講習会に年1回以上参加して、指導力の向上や技術の習得に繋げる。 授業におけるChromebookの活用を積極的に行う。	各教科で主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を行い、わかる授業の実践に努める。実技・実習を伴う教科・科目では複数の教師の協働による指導力向上と技術の習得及び安全確保に配慮する。 Chromebookを活用した学習保障を行う。	B	全教科において教育課程研究協議会に参加し、授業改善、評価等に関する研修を受けた。実技・実習を伴う教科・科目では複数の教師の協働による指導をすることができた。授業でChromebookを活用した共同学習やChromebookの毎日の持ち帰りで学習保障ができた。
		授業の充実	公開授業週間を年2回、授業研究会を各グループ年1回実施する。 各教室に設置している電子黒板機能付プロジェクタを有効活用する。	研究授業では、「主体的・対話的で深い学び」の実現と電子黒板機能付きプロジェクタ・Chromebook等のICTを活用した授業を展開することで、生徒の興味・関心を引き出す。	A	校内での公開授業週間を年2回実施し、指導力の研鑽ができた。芦北町の総合支援事業で導入した各教室の電子黒板とChromebookを授業で積極的に活用できた。
	「確かな学力」の定着	自ら学ぶ学習の奨励	生徒一人あたり年間10冊以上の読書量の確保を目指す。 毎月1回、校内漢字テストを実施する。 生徒はそれぞれに1時間以上の家庭学習量を確保する。	朝の10分間読書の充実を図る。 月1回の漢字テストの実施と事前学習に力を入れる。 家庭学習時間確保のため課題を工夫する。 長期休業期間中、課題を出し学習させる。 町の支援事業で導入したスタディサプリを学科・学年及び教科で活用する。	B	朝の10分間読書を実施し、朝読書が充実した。漢字テストは、学年が中心となり成果を上げ、基礎学力向上につながっている。長期休暇中の課題は各教科で計画的に出題されている。スタディサプリは進学ゼミや公務員指導で積極的に活用されている。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の早期確立	進路情報の収集と活用	生徒の進路選択の情報源となる校内用ポータルサイトの内容を	細かな進路希望調査、生徒一人ひとりの進路面談を通して、進路希望を具体	B	調査結果を面談に反映させ、どの段階でどのような情報が必要か等の要望を進路部が吸い

			拡充する。求人検索システムの運用と改善を図る。	的に把握し、必要な情報について拡充する。		上げ、担任・生徒にフィードバックできた。
		進路保障	2月末には、希望進路達成100%を目指す。全職員による面接指導の充実を図る。	進路希望調査を基にした進路指導や企業求人開拓の実施、進学支援体制の確立や個別指導の充実を図る。	A	進路部、各教科、各学科、キャリアサポーターの連携による早めの準備によって、2月末の希望進路100%達成は充分可能である。
	資格取得の奨励	年間実施計画の提示と推進	生徒一人ひとりが進路実現に繋がる資格取得に2つ以上挑戦できる環境づくりを目指す。	各学科や学年、クラス、教科の協力のもと、資格試験の周知や勧誘を行い、資格取得の学習支援体制を確立する。	B	資格取得に挑戦できる環境は整っている。今後はチャレンジを合格に結びつける支援の充実を図る必要がある。
生徒指導	命や人権を尊重する豊かな心の育成	社会規範意識の醸成と安全安心な教育環境の整備	生徒自身が、社会生活における目標の実現に向けて、自立心を持った生活を送るよう指導する。生徒自身が日常生活や校則見直しの取組を通して、モラル・マナーを主体的に考えるよう支援する。情報モラル教育、生活安全教育を通して、規範意識を高める。また、命を守るためのヘルメット着用を推進する。	分かる指導、丁寧な言葉による指導を徹底する。  生徒との対話や関りを大切にし、モラル・マナー教育を充実させる。情報モラル教育・生活安全教育等について外部機関と連携して講演会等を実施する。また、交通安全の視点から、自転車通学生のヘルメット着用100%を継続する。	B	職員による生徒への丁寧な関りにより、生徒間トラブルなど問題の重大化を未然に防ぐことができた。  芦北署及び県警本部交通機動隊による、交通安全教室を実施し、車両や自転車乗車時の交通安全教育を実施した。  ヘルメット着用率100%の状況を継続している。
	自ら考え、学び、夢に向かって努力する主体的な態度の育成	基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の向上	夢に向かって努力する生徒、互いに協働する生徒、自己と他者を認め、人の心の痛みがわかる、心優しき生徒、課題に気づき、解決のために行動する生徒の育成を目指す。	生徒会が主体となった行事運営や委員会活動の活性化を図る。学級担任を中心とし、学年及び学科と連携して、生徒の個性と長所を伸ばす指導・支援を行う。	A	生徒会の生徒を中心とした学校行事（体育大会、文化祭）運営に取り組み、来場者は近年稀に見る多さであり、充実した内容にすることができた。部活動においては、運動部、文化部ともに多く活躍が見られた。学習成果の発表会、部活動、競技会等で生徒の活躍がみられ、生徒達の自信に繋がっている様子が感じられた。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	教職員の実践的指導力の向上	全職員が校外研修会へ1回以上参加し、意識向上と指導力向上を図る。	職員への研修案内と参加呼びかけを定期的に行い、全職員校外研修に参加する。LHR等での指導力向上に向けた事前研修の充実を図る。	B	校外研修への職員の参加率は75%である。引き続き参加を促していく。人権LHRの内容は、昨年度に引き続き、生徒の実態に合わせた実施することができた。
	すべての教育活動を通じた取組の強化	課題を抱えた生徒への支援と対策	各校務分掌と連携を図り、生徒の実態を把握し、いつでも、どこでも、すぐ	担任・学年会・教科会・特別支援教育・教育相談の各担当者との連携を図り、研修をとおして全職員	B	課題を抱える生徒の情報共有、支援について教育相談部や生徒部と連携し、共通理解を図ることができた。

			に対応できる職員の体制作りを行う。	の共通理解を深め実践力を強化する。		
	命を大切に する心を育む指導の充実	命の大切さを実感させる教育の推進	命を大切にし、自尊感情を高め、お互いを理解し合い、認め合う心を育てる。	教育活動全体を通して全職員が自分の言葉で語り、生徒と共に互いの信頼関係を築く土台作りをする。人権週間、人権集会を実施する。	A	12月に人権週間を設定し、人権委員による昼休み放送（自分を大切にすること、平和や愛を伝えるメッセージ）・県こども人権集会への出席などの取組を行った。
いじめの防止等	いじめ根絶の啓発・推進	いじめを絶対に許さない学校づくり	自己と他者を認め、人の心の痛みがわかる生徒の育成を目指す。全クラスで生徒面談を学期1回以上行い、情報収集と共有に努める。	人権委員の活動を通して、いじめ防止に関するメッセージボード作成や校内放送を実施し生命や人権を大切にすることを育む。「目指す生徒像」「いじめを許さない宣言文」を教室に掲示し、啓発する。	A	人権月間の取り組みで、昇降口の掲示板にいじめ防止につながるメッセージを週替わりで作成している。生徒総会（6月）および人権週間（12月）に「いじめを許さない宣言文」の確認を行った。
	いじめの防止と早期発見	いじめ防止や早期発見・早期対応	心のアンケートを年3回実施して、いじめの実態を把握し、対策を早急にする。いじめの把握においては、関係機関と連携を密に取り合い早期対応に取り組む。	心のアンケート結果を基に、実態把握に努める。（年3回のアンケート実施）いじめ防止等対策委員会を年3回実施し、外部専門家から指導・助言を仰ぎ、取組についての検証を行う。また、対応が必要な場合は、教育相談部、生徒部と連携し、早期解決に向けて組織的に取り組む。	A	心のアンケート実施後、1時間以内に状況把握・報告とスピーディな対応ができた。アンケート以外でも、関係機関と連携し、適切に対応することができた。いじめ防止等対策委員会において、気になる生徒について外部専門家からアドバイスをいただいた。
教育相談	特別支援教育	支援対象生徒について早期の支援開始	保護者、中学校、職員から得た情報を迅速に集約する。生徒理解の職員研修等を学期に1回行い、全職員の共通理解を図る。保護者の理解を得て、支援を開始する。	「保護者の気づき」「中学校訪問記録」で新入生の実態を4月初旬までに把握する。「気づきメモ」週間、教科担当者会を踏まえ、個別の教育支援計画を作成し、生徒理解研修を実施する。	A	新入生の実態把握に努め、年度初めに生徒理解研修を行い、職員間での共通理解を図った。新入生の支援対象生徒については、個別の教育支援計画・指導計画を作成し、その後の生徒理解研修に結びつけることができた。
		支援対象生徒の進路保障	支援対象生徒（3年生）の進路決定100%を目指す。1・2年生の進級を目標に、あらゆる場面で支援を行う。	担任、進路部、教育相談部、関係機関と連携を取り、保護者の理解を得て進めていく。	A	進路指導部と協力し、支援対象の3年生については、就職支援を行うことができた。また、就職後も福祉機関と連携し継続した支援ができるよう引継ぎを行うことができた。支援対象生徒の保護者の理解を得て、全員の引き継ぎを行う。
	教育相談	生徒の実態把握と課題解決	欠席が続く生徒、その他精神面への支援が必要な生徒の課題解決を図る。職員が一人で抱え込まないための相談体制の充実を図る。	定期的に教育相談校内委員会（生徒サポート委員会）を開催し情報共有を図る。スクールカウンセラーを活用し課題解決に向けた方策を検討する。	A	教育相談部で情報交換を行い、生徒の状況把握に努めた。また、生徒サポート委員会を実施し全体の情報共有ができた。スクールカウンセラーにはカウンセリングのほか職員へ

				必要に応じて医療機関や福祉事務所等と連携を図る。		の助言、必要に応じて関係機関等との連携を図った。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールをはじめとした地域連携の体制づくり	災害時の地域連携体制づくり	学校運営協議会を年間2回開催し、災害時における地域連携の基本計画を作成する。	町との連絡体制、地域住民の受入、避難所運営、災害経験を活かした地域合同防災訓練への参加等を検討する。また、町の方針に基づいた避難所運営についても検討する。	B	町役場の協力のもと3回の避難訓練と、防災講話を実施した。校内だけでなく、地域の防災の現状を知り、自助・共助の重要性と自分たちにできることを考える機会にできた。
		平常時の地域連携体制づくり	学校運営協議会時に、平常時における地域連携に関する具体的方策を協議する。	佐敷小・中学校及び芦北支援学校本校・佐敷分教室との交流活動、乙千屋地区住民の参加型交流活動を検討する。	A	各校種や佐敷分教室との交流学习については、例年以上に積極的に取り組むことができた。また、現在交流している学校に加えて、新たな学校との交流の可能性についても検討を進めている。さらに、芦高祭では例年を大きく上回る来場者数があり、地域の方々との交流を深める良い機会となった。
		芦北町芦北高校総合支援事業の有効活用	芦北高校総合支援事業を有効に活用する。	各事業の趣旨を踏まえ、十分に効果が上がるように実施する。今年度からグローバル人材育成研修の活用と、生徒の進路決定につながる活用に力を入れる。	A	町の総合支援事業を有効活用し、各学科・教科特色ある取組を実践し専門的な学びの深化につなげた。生徒の進路実現に向けても大変有効な取組となった。それ以外の事業でも本校の教育活動全般において有効に活用し、活動内容や魅力を全国にPRすることができた。

#### 4 学校関係者評価

- (1) 学校経営の基本方針および学校運営に関する意見
- ・ICT特定推進校として、ICT教育に積極的に取り組んでいる。デジタル採点システムや「すぐえる」、「スタディサプリ」を活用したオンライン学習については、今後も継続して取り組んでほしい。あわせて、生成AI等の新たな技術についても、教育的効果を踏まえながら活用の幅を広げていくことを期待する。
  - ・芦北高校生ならびに学校として、常にチャレンジしようとする意向が感じられる、非常に良い方針と運営目標であると評価している。一人の保護者として、改めて芦北高校の教育スタイルを誇りに思います。情報社会が急速に発展・進展する現代において、今後も引き続き、生徒自身の行動力や判断力の向上を図る教育を推進していただきたい。
  - ・学校経営の中で小中学校や地域との連携を深め芦北高校の魅力を地域に発信し各科の特色を活かした生徒募集が実施され、入学生の増に繋がったことは評価したい。
  - ・子どもたちに向かい合った経営、運営になっていると感じる。
- (2) 学校と地域の連携(学校支援活動の活性化)に関する意見
- ・町への進出企業、地場企業が関わっていける機会を創出するお手伝いをしたい。
  - ・これまでの連携維持と今後更なる学校支援の活性化推進を行なっていただきたい。育友会として、芦北町に対して日頃のご支援に対してのお礼を申し上げる。
  - ・災害時の地域連携体制や町との連携、地域住民を交えた避難所運営など検討されており自助、共助の重要性を理解できる機会と思われる。
- (3) 地域や保護者の願いやニーズに関する意見
- ・生徒の半数ほどが芦北外からおれんじ鉄道などを利用していることを知り驚いた。地域として、八代・津奈木・水俣などとの関わり方をさらに深めてほしい。
  - ・保護者の願いやニーズには十分に答えられていると思う。地域の高齢化から芦北高校に対する期待や要望は、年々多くなっていくと思われます。出来ることと出来ないことの線引きを明確にしていく必要があると思う。

- ・電車通学生が増加状況である中、学校近隣在住でない生徒の佐敷駅から学校までの通学時の状況について、例えば歩道を広がって歩く事による近隣の方への迷惑行為等、発生防止のための安全教育を改めてお願いしたい。
- (4) 学習活動、生徒指導、施設設備への意見
  - ・少子高齢化による人口減少や農林業の後継者不足が進行する中で、高校で習得した技能や資格を生かし、地域の願いやニーズに応えていくことが求められている。
  - ・キャリア教育の部分で芦北町に視察にきているIT企業の社長さんや役員の皆さんとディスカッションをしたり、大学生との交流を図り選択肢を増やすことをお手伝いしたい。
  - ・子どもたちは、全ての面で楽しそうに取り組む姿が見られ、素晴らしいと感じる。
  - ・各学科の学習活動の充実ならびにコミュニティ教育・コミュニケーション力向上の一環として、セミナーハウスの有効活用について検討したいと考えている。学校としての許可はもとより、保護者および支援者の皆様のご理解が必要となりますが、セミナーハウスにおける生徒宿泊を伴う演習学習や、宿泊時に実施する学科・学年別の保護者交流会について、実施の可否を含め相談したい。
  - ・授業力の向上に向けた取組により、自ら学ぶ力を育成するための具体的な方策が構築されており、生徒指導についても十分な指導がなされている。また、施設整備については、芦北町総合支援事業を活用することで、計画的に整備が進められていると考えられる。
- (5) 災害時の避難所協力や防災教育等に関する意見
  - ・様々な災害を想定された取組をされていることが素晴らしいと思う。災害時の避難所協力が可能ならば地元としては嬉しく思う。
  - ・いつ発生するか分からない自然災害等に備え、引き続き、生徒一人ひとりが自身の危険に対する感受性を高めることができるよう、防災教育の推進をお願いする。
  - ・避難訓練では、地震・津波、洪水、土砂災害、火災等を想定した訓練が実施され、想定に応じた対応策が講じられていることから、訓練内容は良好であると評価できる。
- (6) その他全般に関する意見
  - ・学校下宿については、一定の課題があることは以前より認識していましたが。様々な事情があることも理解しているが、今後の在学生徒数の確保を考えた場合、近隣中学校からの入学生確保に加え、学区外からの入学生を一人でも多く受け入れていくことが不可欠であると感じている。その取組がなければ、これまで積み重ねてきた本校の特色ある教育活動や、地域の皆様からのご支援を将来にわたり維持していくことは難しいと考える。期間を要する検討になることは承知の上で、矢部高校の事例に見られるような学校寮の設立検討も含め、多様な選択肢について運営協議会の場で協議できればと考えている。
  - ・いつ来校しても校内が整備されており、四季折々の花が咲く、気持ちのよい教育環境が保たれている。

## 5 総合評価

- (1) 教育目標「私は挑戦する、夢を実現するために」を掲げ、生徒が主体的に取り組む学習活動を実践し、家庭、地域と連携を深めながら目指す生徒像の実現を実践することができた。
- (2) 職員研修では、人権教育、児童生徒性暴力等の防止、いじめ防止、不適正会計処理防止など、教育課題や時事的要請に応じたテーマを設定し、計画的に実施することができた。また、PLANTを活用した外部研修会への参加については、引き続き奨励していく必要がある。
- (3) 小中学校や地域との連携、地域みらい留学の取組等の成果により、年度当初目標としていた数の新入生の確保につながった。学校評価アンケートでは、本校の教育活動に対して肯定的な回答は9割以上であり、本校教育が肯定的に受け止められている。
- (4) 1人1台端末をはじめとするICTを活用した学習の充実により、主体的・対話的で深い学びが実現し、生徒の各教科に対する興味・関心が高まり、「分かる授業」につなげることができた。また、校内において公開授業週間を年2回実施し、教職員の指導力向上と授業改善に資する研鑽の機会とした。
- (5) 部活動の活性化は学校全体の活性化に大きく寄与している。本校では地域スポーツクラブ活動との連携や外部指導者活用を推進しており、その成果として新体操部および空手道部が全国大会出場を果たした。インターハイにおいては新体操部が団体3位入賞という優秀な成績を収めている。これらの成果は、本校の教育活動の充実にとどまらず、地域全体の活性化にも大きく貢献するものである。
- (6) 職員一人ひとりの細やかな指導と、ICTを活用した効果的な進路指導の成果により、総合型選抜において国公立大学へ1名が合格するとともに、高い公務員合格率を達成するなど、今年度も優れた進路実績を収めることができた。また、就職内定率は100%を達成した。
- (7) 人権教育においては、「自分と他者を認め、人の心の痛みが分かる心優しき生徒」の育成を目標に掲げ、人権尊重の精神を高める多様な取組を実施した。加えて、毎学期実施している心のアンケートや個別面談を通して生徒の内面把握に努め、職員間での情報共有を積極的に行った。いじめや生徒間のトラブルについては、早期に対応する体制を整え、事案の未然防止および早期解決を図ることができた。
- (8) 生徒サポート委員会や個別の支援シートを活用し、生徒部、教育相談部等が積極的に

情報共有を行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部の専門関係機関とも連携し、組織的かつ継続的な支援体制の充実を図った。

- (9) 芦北町の芦北高校総合支援事業を有効に活用し、生徒の各種活動において顕著な成果を上げることができた。学校農業クラブ連盟全国大会では、プロジェクト発表Ⅱ類において優秀賞を受賞するとともに、鑑定競技においても2名の生徒が優秀賞を受賞した。さらに、九州森林管理局主催「森林・林業技術交流発表大会」で最優秀賞、「海ポス甲子園」において海つなぎ賞を受賞するなど、芦北高校の魅力や学びの成果を全国に向けて発信することができた。
- (10) 芦北支援学校佐敷分教室と連携し、文化祭、体育大会、長距離走大会などの各種行事を協働で実施した。交流を深めるとともに、他者の違いを認め合い、互いの学びを深化させる貴重な機会となった。
- (11) 避難訓練では、地震・津波、洪水、土砂災害、火災等を想定した多様な訓練を実施した。地域防災教育の一環として、従来の防火訓練に加え、地元消防団を招いて初期消火時に使用する室内消火栓および消火器の使用方法について指導を受け、生徒が実際に体験する機会を設けた。これにより、生徒の防災意識の向上を図るとともに、地元消防団への理解を深めることができた。

## 6 次年度への課題・改善方策

- (1) 芦北町の総合支援事業を受け、生徒のレベルアップと地域への還元を柱として、生徒のチャレンジ精神を喚起する魅力的な取組をさらに推進する。併せて、芦北郡管内の小・中学校との交流学习を一層深化させ、学びの連続性と地域連携を強化することで、本校の教育活動の魅力を積極的に発信し、生徒募集の充実につなげる。
- (2) 災害時における地域との避難所運営の協力体制については、現在も継続して検討を進めている。災害対応に当たっては、「平常時の対応」と「緊急時の対応」に分けて整理する必要があり、令和2年7月豪雨災害の経験を踏まえると、特に平常時からの備えや連携が重要である。今後は、探究的な防災教育を通して、生徒が主体的に地域防災について考え、行動できる力の育成を図っていく。
- (3) 部活動や各種競技会、進路指導等において成果を上げつつ、働き方改革の視点を踏まえ、効率的かつ効果的な業務の在り方を継続的に模索していく。
- (4) 芦北町からの総合支援事業について現状分析を行うとともに、今後の取組が在校生の学びや活動の充実につながり、さらにその成果が波及して生徒募集へと結び付く事業へ発展するよう、継続的な改善を図っていく。
- (5) 地域みらい留学の取組を一層加速させ、県外及び域外からの入学生の確保に努める。そのため、行政・企業・地域と連携し、魅力的で安心・安全な住環境の確保および整備を計画的に進めていく。
- (6) 地域みらい留学を通じた全国への情報発信を進めるとともに、管内の生徒に向けた広報の充実を図る。学校パンフレットの作成、ホームページの随時更新、SNSの積極的な活用など、定員確保に向けて多角的な検討を重ね、実施可能な取組を着実に実践する。また、登り旗やバックパネル、シェアハウスパンフレット等の作成を検討し、地域と学校の魅力を効果的にPRしていく。